



キーパーソン

在宅で患者さんを診ていると、さまざまなお家族にお会いします。初診の時に会いする家族、お見舞いがてらにお会いする遠方にお住まいの家族、患者さんの容態が

悪くなった時にお会いするご家族など。

通常の診療では、こちら側と家族側の意見を滞りなく交わしていけるように、ご家族側で1人キーパーソンを決めてもらい、その方にお話をするようになります。

先日、一人暮らしの人の男性で、数十年来のお見舞いがてらにお会いする遠方にお住まいのご友人に何かと面倒を見てもらっているという方がいました。初めの頃は

学生時代の成績自慢をお互いに言っていて、「忌憚なく言い合える家族以外は羨ましいなあ」と思っていました。

日本では医療の意思表示が難しい場合は本人、本人の意思が示がなければ家族が行うこととなります。代理の医療同意権は、他の方

に委ねられています。その状況は私にこまめに連絡してください。緩和医療に移行する話が出たときにも、「最期を自宅かホスピスにするかは、本人の意思を尊重したい」と話されていました。

ところが……。終末期になると、遠方のご家族がお見舞いに来て、残念ながらご友人が終末期に

なると、遠方のご家族がお見舞いに来て、残念ながらご友人が終末期に

関わる事ができなく



松原 清二 医師
 在宅療養支援診療所「まつばらホームクリニック」院長
 総合内科専門医・循環器内科医
 ・日本循環器学会専門医
 ・日本内科学会認定医
 ・認知症専門医
 ・認知症サポート医

本人の意思を尊重したい」と話されていました。

ところが……。終末期になると、遠方のご家族がお見舞いに来て、残念ながらご友人が終末期に関わる事ができなく

[まつばらホームクリニック]
 ☎042-439-1250
 西東京市東町 4-14-18-2F
 (訪問のため不在が多い)
 ■電話対応：午前 9:00 ~ 午後 6:00
 ■定休日：土日 (祝日は診療)
 ■訪問地域：西東京市、東久留米・新座・練馬の一部
 まつばらホームクリニック 検索

